

スウェーデンでもフィンランドでも、 共産党は NATO 加盟に反対している

In both Sweden and Finland, Communists oppose NATO plans

People's World

May 17, 2022

BY STEVE SWEENEY

<https://www.peoplesworld.org/article/in-both-sweden-and-finland-communists-oppose-nato-membership-plans/>

スウェーデン、フィンランド両国の共産党は、NATO 加盟を申請するという両国政府の発表に強い反対を表明している。

スウェーデンの場合

スウェーデンのマグダレナ・アンデルソン首相は、ロシアのウクライナ侵攻を受け、社会民主党が長年反対してきた NATO 加盟を取り下げ、できるだけ早い加盟を目指すと発表した。

スウェーデン共産党 (SKP) は、与党加盟支持決定を非難した。そして「200 年にわたる中立政策に終止符を打つこの転換は、スウェーデンの勢力圏確保と海外投資防衛の願望によるもの」と述べた。

さらに、帝国主義システムの矛盾が激化し、「各国の資本が有利な投資と自らの成長を求めることは避けられない」と付け加えた。

SKP は以下のように指摘した。この決定は社会民主党の大会決議に違反しており、また 2021 年 11 月に同党が採択した「軍事的非同盟をスウェーデンの安全保障政策の基礎」とするという声明とも背反する。

以前、社会民主党は NATO 加盟がもたらす脅威について、はるかに毅然としていた。彼らは帝国主義圏への加盟を断固として否定していた。



この変化について共産党は説明する。

もちろん、安全保障政策の状況は変化している。スウェーデンの海外投資は、10年前よりも脅かされている。なぜなら、矛盾が先鋭化したからだ。

だから、スウェーデンの政治家は自分の地位を守るために行動するしかない。自分たちだけではどうにもならない。

だから、とても簡単なことだ。資本が求めれば、そのとき、議会の決定は何の意味もなくなるのだ。

フィンランドの場合

フィンランドのサウリ・ニーニスト大統領とサナ・マリン首相は、大統領官邸で演説した。

二人は、ロシアのウクライナ侵攻によって国内の安全保障状況が変化したため、NATO加盟が必要になってきたと主張した。

一方、「フィンランドの平和と社会主義のための共産主義労働者党」(KTP)は、次のように述べた。

党は、「北欧諸国が同盟に参加すべきではない8つの理由」を強調した。

NATOの拡大は、ロシアとアメリカの対立を拡大し、第一次世界大戦前のように、世界を更に深く二つの同盟に分けることになる。

フィンランド共産党は、さらに政府の NATO 参加計画そのものに反対の意思を表明した。

フィンランドは、大国間の紛争の最前線に立つことになる。このことは、軍事的な攻撃に対して脆弱性を高めることになる。

それはフィンランドを安全にせず、逆に攻撃されやすくする。また、フィンランドを含む北欧地域において軍事緊張を深めることになる。

共産党は過去の歴史を振り返り、次のように述べた。

フィンランドは、第二次世界大戦以降のすべての政策の貴重な遺産を否定し、近隣の地域に戦争の恐怖を撒き散らし、軍国主義や軍備の促進に貢献することになる

フィンランドの非同盟国としての地位は永久に失われ、安全が保証されるどころか、戦争の危険にさらされることになると警告した。

米国はもっとも危険な国家だ

フィンランドの共産主義者たちは主張する。

NATO を実質的に主導している米国は、世界で最も危険で活発な軍事国家である。米国は、存続し始めて以来ずっと、事実上の戦争状態にある。

声明はさらに付け加えて、帝国主義者の世界を股にかけた超大国は信頼できないと主張した。

即時加盟の可能性は五分五分

スウェーデンとフィンランドの軍事同盟への加盟は、NATO の優先課題となる可能性がある。しかしトルコは両方に対して拒否権を行使する可能性がある。

トルコ政府は、スウェーデンとフィンランドがクルド労働者党 (PKK) に関連する「テロリスト」をかくまっていると非難している。

そして支援の見返りとして、PKK 支持者とされる多数の人物の引き渡し、安全保障、武器禁輸の終了を要求している。

ロシアのプーチン大統領は、ストックホルムとヘルシンキに「重大な誤り」を犯さないよう警告した。しかし今のところ、ロシア軍が即座に動くような素振りを見せていない。